〈経営研究　第15巻　第2号　平成13年12月〉

中国語直喩表現及び中日直喩構文の比較

――「象…一样」と「ようだ」

苗　　芡

【キーワード】

◎　直喩表現
◎　比喩連語
◎　本体
◎　喩体
◎　直喩文の類型

【KEY WORDS】

◎　SIMILES
◎　IMAGERY　PHRASE
◎　SUBJECT OF THE IMAGERY
◎　OBJECT OF THE IMAGERY
◎　IMAGERY SENTENSE PATTERNS

【目　　次】

Ⅰ　はじめに
Ⅱ　中国語における直喩表現
1　基本理論の紹介
2　中国語直喩文の構造
2-1　中国語直喩文の構文要素
2-2　中国語直喩文の構文類型
2-2-1　「主謂型」と「修飾型」
2-2-2　比喩連語の役割による分類
2-3　中国語直喩文の相似項の特徴

Ⅲ　中日両語の直喩表現の比較
1　中日直喩各類型の対応状況
2　文学作品から見た中日両語直喩表現の特徴
2-1　調査の対象と方法
2-2　原，訳本比較の数字データと例文
2-3　中日文学作品の直喩使用の特徴
Ⅳ　おわりに

Ⅰ　はじめに

比喩表現は最も多用される修辞表現として，中日両国の言語学界では，さまざまな面から研究されてきた。筆者は以前，「日本語直喩表現に関する一考察――類似とその言語的形式をめぐって」(注1)（以下，「一考察」）というタイトルで，直喩表現の成立，ならびに日本語における直喩表現の言語的性格について，考察したが，これも数多くの先行研究の啓発のもとで，できたものである。

本稿では，引き続き直喩について，検討していこうと思うが，今度は中国語の直喩表現の言語的形式に力点を置いて論じ，さらに中日直喩構文の比較を行いたい。

まず，中国語における直喩表現についての先行研究を紹介して，中国語直喩構文の類型を分けてみる。そして，「一考察」で提起した日本語直喩構文の比喩指標(注2)による分類法を参照に，両言語の直喩文を各類型がどういう形で対応しているかを調べてみる。さらに，文学作品を対象にし，中国小説の原本とその訳本から抜き出した直喩文を比較することによって，実用の面から，両言語の直喩表現における構文的特徴を見出そうとする。

Ⅱ　中国語における直喩表現

1　基本理論の紹介

中国語においては，直喩のことを一般に「明喩」と呼んでいる。無論，「直喩」という呼び方も存在する。むしろ，「直喩」のほうが早く提起されているのである。南宋時代の修辞学専門書『文則』(注3) には，こういう比喩法は初めて「直喩」という名称で表われ，十種の比喩の最初に，論述されていた。

一曰直喻。或言“犹”，或言“若”，或言“如”，或言“似”，灼然可见。(注4)

（一番目は直喩という。「犹」，「若」，「如」或いは「似」を用いて，比喩であることがはっきりと示されるものである。）(注5)

また，『漢語辞格大全』(注6) では，明喩の定義について，次のように説明している。

比喻的一种。它常用“象，似，仿佛，如，好象，犹，若，犹如，有如，一般，一样，似的，象…似的，如…一般”等比喻词把本体，喻体连接起来。又叫直喻。

（比喩の一種。常に「象，似，仿佛，如，好象，犹，若，犹如，有如，一般，一样，似的，象…似的，如…一般」などの「比喩詞」を用いて，「本体」と「喩体」を連接させる。「直喩」ともいう。）

さらに，中国現代修辞学の元祖陳望道氏はその著書『修辞学发凡』(注7) では，比喩法について，次のように述べている。

这格的成立，实际上共有思想的对象，另外的事物和类似点等三个要素，因此文章上就有正文，譬喻，喻词等三个成分。

（この修辞法の成立は，事実上，思想の対象，ほかの物事及び類似点など

の三つの要素によるものである。従って，文章の中では，正文，譬喩と比喩詞の三つの構文成分がある。)

ここでは，「類似点」が比喩成立の三要素の一つとされていて，不可欠な必要要素とされている。「一考察」では，「類似性」の重要性[注8]についての考えを述べたが，上述の陳望道氏の理論と一致しているといえよう。

2　中国語直喩文の構造

2-1　中国語直喩文の構文要素

中国語直喩文の構文構造を分析するには，まず，直喩文のいくつかの構文要素の定義と性質をはっきりとさせなければならない。ここで，Ⅱ－1で引用した陳望道氏の論述をもう一度思い出していただく。

这格的成立，实际上共有思想的对象，另外的事物和类似点等三个要素，因此文章上就有正文，譬喻，喻词等三个成分。这格……文章上就有正文，譬喻，喻词等三个成分。

(この修辞法の成立は，事実上，思想の対象，ほかの物事及びに類似点などの三つの要素によるものである。従って，文章の中では，正文，譬喻と比喩詞の三つの構文成分がある。)

この三成分という理論は，いまでも中国語修辞学の基礎原理の一つとされている。

陳氏がここで用いた「正文」，「譬喻」，「喻词」という用言は，現代修辞学では一般に「本体」，「喻体」，「比喻词」と呼ばれている。その中で，「本体」，「喻体」はそれぞれ直喩表現の中の「喻えられる物事」と「喻える物事」を指す。しかし，「本体」という一つの名称で，喻えられる物事そのものも示し，直喩文でそのものを表す語句をも示すとすれば，区別はつきにくいであろう。この点では，「喻体」も同じである。本稿では，喻えられる物事，喻える物事

自体を，それぞれ「x」，「y」で示し，そして，それらの物事を直喩文で表現する語句のことを，それぞれ「X」，「Y」で示すこととする。

三番目の成分とされた「比喻词」は性質から見れば，中村明氏の提唱した「比喩指標」に相当するであろう。中村氏の言葉を借りて説明すると，「比喩詞」とは，「比喩の目じるしとして，受容主体がその表現から比喩性を感じとる直接の契機となる特定の言語形式」である。ただし，中村氏がいう日本語の「比喩指標」の範囲は非常に広いので，中国語の「比喻词」の範疇は中村氏の規定とぴったりあうとは言えない。

次に挙げる言葉は，中国語の直喩で常用する「比喻词」である。

「象，如，似，若，犹，好象，仿佛，犹如，有如，恰似，好似，宛若…」

以上の比喩詞は喩体（Y）の前にくる。

「一样，似的，般，一般…」

これらの比喩詞は喩体（Y）のあとに現れる。

そのほか，以上二組みの比喩詞がペアで組み合わされて，直喩文に現れるものも少なくない。『漢語辞格大全』では，比喩詞の「単用」と「複用」(注9)という概念が記されている。

その中で，「単用」は，一つの比喩詞を用いる場合，そして「複用」は比喩詞をペアで使う場合である。例えば，

「象…一样，好象…似的，如…一般」

などである。

以上，陳望道氏による直喩文の三大成分の性質，特徴について述べてきたが，ここで，中国語直喩文の構文の，もう一つの構成部分について見てみよう。同じ陳氏の理論では，直喩の三大要素：喩える物事，喩えられる物事，類似点が強調されている。その中で，類似点(注10)を表す語句（日本語式では類似項という）は文の構成において重要な役割をもっているといえる。

まず，次の例文を見てみよう。

1　两条腿象木头一样硬。（二本の足が木のように硬い。）

この直喩文において，前に紹介した三大成分は，それぞれ次のようになる。

两条腿　　象　　木头　　一样　　硬。

（本体X）（比喩詞1）　（喩体Y）（比喩詞2）

ここで，「硬」という部分が残った。この部分はどう位置づければよいだろうか。前に紹介した直喩表現についての考え方からみると，同じく「类似项」という名称を用いて，構文上の作用も日本語における類似項と同じぐらいのものと考えてよいと思われるが，しかし，類似点の性格について，中国修辞学者の中には，いくつかの学説がある。黄婉莹は『"相似点"的身分与隐现』(注11)で，この成分の役割について，以下三つの説を紹介している。

①「硬」という部分は直喩文の「喩解」である(注12)。

喩解は，直喩のxとyがなぜ似ているのか，どこが似ているのかといった問題に回答し，直喩成立の理由を説明する。しかも，喩解という成分は本体，喩体，比喩詞と並んで，直喩文の重要な構成成分と見るべきである。

②「硬」という部分は本体に属するものである(注13)。

「两条腿硬」（二本の足が硬い）がこの直喩文の本体である。本体というのは，喩えられる物事自体だけではなくて，その物事のある特定の状態や性質（硬）も含めているのである。

③「硬」という部分は，本体と喩体の「相似点」である(注14)。

即ち，喩えられる物事（x）と喩える物事（y）の共有する特性を表しているのである。また，場合によって，「相似点」が文中に現れるもの（显现式）と現れないもの（隠含式）がある。

これら三つの学説の中で，説①「喩解」説は，学術的にも広く認められていて，比喩についての語学教育においても，多く用いられているのである。一方，筆者の直喩文に対する理解からいえば，どうしても説③の「相似点」説に同感せざるを得ない。

ただし，「相似点」という名称が，日本語における「類似点」と同じように，xとyの似ている性質やイメージを指すとすれば，直喩文の中で，これを表す語句は何か別の名称をつけて呼ぶべきである。本稿では，とりあえずこれを「相似項」と呼ぶことにする。

いうまでもなく，中国語においても，日本語の「類似項」と同様に，「相似項」は文中に現れる場合と現れない場合があるが，いずれにしても，「相似項」は直喩文の構造を分析するときに，無視してはならない，重要な一成分である。「相似項」の構文上の役割については，Ⅱ-2-3 でまた詳しく分析するので，とりあえず次に進む。

2-2　中国語直喩文の構文類型

2-2-1　「主謂型」と「修飾型」

『漢語辞格大全』では，直喩文の構文構造は主謂型（主述型）と修飾型の二つの種類に分けられている[注15]。「主謂型」というのは，比喩詞と喩体（Y）とが比喩連語[注16]となって，本体（X）と比喩連語とは主述関係にある直喩文のことを指す。

2　瞳仁的闪光就象暗夜中的星星。(瞳の輝きはまるで暗い夜の星のようだ。)
(张贤亮『绿化树』)

一方，「修飾型」というのは，比喩詞と喩体（Y）からできた比喩連語が本体（X）や本体の性質，状態，動作などを修飾する役割を果たす直喩文を指すのである。次の例文は，それぞれ比喩連語が本体を修飾する「定語」(連体修飾語）となっているもの（例文 3)，本体の動作，状態を修飾する「状語」(連用修飾語の一種）となっているもの（例文 4）である。

3　鱼鳞似的白云渐渐地消散了。(鱗のような白い雲が消えていった。)
(巴金『秋』)

4　黑的山峰象巨人一样矗立在面前。(黒い山は巨人のように目の前にそびえている。)　(陆定一『老山界』)

直喩文をこのように分類するのは，確かにそれだけの理由がある。ただ，もう一つ見落としてはならない重要なことがここにある。比喩連語が補語(連用修飾語の一種）[注17]になる場合の直喩文が忘れられているということのである。

主謂型の例として，『漢語辞格大全』には，こういう文がある。

5　君子之交淡若水。(教養のある人の交際は水のように淡泊である。)

だが，ここの「若水」が本体「君子之交」の性質「淡」を修飾する補語で，本体自身を説明する謂語（述語）ではないことは明らかである。このような文はもう一種類の修飾型の直喩文と見てよかろう。次の例文でも，比喩連語「得象水一样」は同様に述語「冰凉」を修飾する補語となっている。

6　夜静悄悄的，街上，冰凉得象水一样。(夜は静かで，街は水のように冷たい。)　(李准『冰化雪消』)

ここで，主謂型と修飾型という分類法をもとにして，さらに全面的な分類ができるかを試みる。

2-2-2　比喩連語の役割による分類

「一考察」では，日本語直喩文を比喩指標の活用と文法上の役割によって，四つのタイプに分けている。

a ようだ

光陰は矢のようだ。　(X は Y のようだ。)

b ような

矢のような光陰　(Y のような X)

c ように

光陰は矢のように（過ぎていく。)　(X は Y のように　述語)

d ように

矢のように過ぎていく光陰　(Y のように　連体修飾語　X)

日本語における「比喩指標」と中国語における「比喩詞」とは共通しているといえるが，中国語直喩文の場合は，日本語のように，直喩文を比喩指標の活用形によって，分類するようなことはありえない。なぜなら，中国語には，用言の活用にあたるものがないからである。そこで，比喩詞を骨格とした比喩連語の文中の役割，そして，ほかの構文成分との関係という基準によって，中国語直喩文の分類を行なった。

A 謂語型

两条腿　象木头一样。　（二本の足は木のようだ。）

（主体　比喩連語）

（主語　謂語）

B 定語型

象木头一样的　两条腿　（木のような二本の足）

（比喩連語　主体）

（定語　被修飾名詞）

C 状語型

C －①　謂語を修飾する

两条腿　象木头一样　硬。　（二本の足は木のように硬い。）

（本体　比喩連語　相似項）

（主語　状語　謂語）

C －②　定語を修飾する

象木头一样　硬的　两条腿　（木のように硬い二本の足）

（比喩連語　相似項　本体）

（状語　定語　被修飾名詞）

D 補語型

D －①　謂語を修飾する

两条腿　硬　得象木头一样。　（二本の足は木のように硬い。）

（本体　相似項　比喩連語）

（主語　謂語　補語）

D －②　定語を修飾する

硬　得象木头的　两条腿　（木のように硬い二本の足）

（相似項　比喩連語　本体）

（定語　補語　被修飾名詞）

上の分類はⅡ-2-2-1 で提示した主謂型と修飾型の分類法を基礎にして，さらに，修飾型を定語型，状語型，補語型の三つに分けたものである。そのなかで，A の謂語型では，直喩の本体は文の主語にあたり，比喩連語は文の述語の役割を果たす。

7　夜空像无边无际的透明的大海，安静，广阔而又神秘。

（夜空は，澄み切った限りない海のようで，静かで広くて，神秘的である。）（吴强『红日』）

8　她好似大树林里一株修长，俊美，枝叶婆娑，情致别样的小白桦树。（彼女は大きな森の中の，枝がゆらゆらと揺れる一本の小さな白樺の木のように，すらっとして，きれいで，格別な風情をしている。）（冯骥才『爱之上』）

9　原来缎子般光滑的前额已刻上了皱纹。（シルクのようになめらかだった額はもうしわが刻まれている。）（谌容『人到中年』）

10　她像一棵临风摇拽的杨柳。（彼女は風にゆれている柳の木のようだ。）

この四つの例文はいずれも主謂型に属するが，相似項の状況は異なっている。例文 7，8，9 では，相似項はそれぞれ述語（安静，广阔而又神秘），Y（小白桦树）の修飾語（修长，俊美，枝叶婆娑，情致别样的），X（前额）の修飾語（光滑的）となっている。例文 10 には，相似項がない。

B の定語型では，比喩連語が本体の名詞を修飾する役割を果たす。

11　余丽娜，这位天仙似的女郎……（余麗娜，この天女のような女の子……）

12　她是一个象美丽而骄傲的孔雀一样的女孩。（彼女はきれいで，おごりたかぶった孔雀のような女の子だ。）

例文 11 は定語型直喩文の中で，相似項のないもので，例文 12 は相似項のあるものである。

C の状語型と D の補語型の例文の日本語訳を見れば分かるように，C －①と D －①，そして，C －②と D －②の文は，日本語では，同じ言い方であるが，中国語では，比喩連語とそれによって修飾されている語句の位置の違い

によって，二通りの表現法がある。C 型の文は「比喩連語＋被修飾語（用言）」の形を取り，D 型は「被修飾語（用言）＋比喩連語」の形を取る。C 型のように，用言の修飾語を前置きにする場合，修飾語は「状語」といい，D 型のように用言の修飾語を後に置く場合，修飾語は「補語」という。

C 型にも D 型にも，それぞれ①と②の二種類がある。その分類の基準は次のとおりである。

①の比喩連語が修飾している用言は文の述語であり，文全体が比喩表現になっている。こういった類の直喩文は日本語直喩文のタイプ c の場合と同じである。

13　天空像用水冲洗过的一整块青石板那样的洁净，透明。（空は水で洗ったあとの一枚の大理石の板のようにきれいで，すきとおっている。）

（陈立德『前驱』）

14　准葛尔原野美丽得像一个新娘。（ジュンガルの野原は花嫁のように美しい。）　（安静『将军的故事』）

①の直喩が文のレベルで表現されているのに対して，②の直喩は名詞句にとどまるのである。比喩連語が修飾している用言は，本体を修飾する定語である。次はそれぞれ C －②（例文 15）と D －②（例文 16）の例である。

15　她有着宛如碧玉一样温润的肌肤。（彼女は碧玉のようになめらかで，すべすべした肌をしている。）

16　亮得象没有微尘的海水的眼睛（ちり一つない海面のように輝いている目）

2-3　中国語直喩文の相似項の特徴

上で，中国語直喩文における「相似項」の特殊の位置づけについて述べた。相似項が文の中でさまざまな文法的な役割を果たしていることはいうまでもないが，ここで，それぞれどういう役割をしているか，相似項の構文上の特徴をまとめてみたい。（以下の例文の相似項部分は斜体になっている。）

①比喩連語と並んで，文の述語となる。

17　她的*神态拘谨*，宛若一株含羞草。（彼女は態度が堅苦しくて，まるで含羞草のようだ。）（柳溪『四姐妹』）

18　他*行动敏捷*，像离弦的箭。（彼は動作がすばしこくて，放たれた矢のようである。）

②文の述語となる。比喩連語が状語か，補語となって，相似項を修飾する。

19　她的性格象水一样的*温柔*。（彼女の性格は水のようにやさしい。）

20　她那月牙形的笑眼*平静*得象雨后的湖面。（彼女の三日月のような目は雨あがりの湖面のように静かだ。）（张斌『紫丁香』）

③比喩連語と並んで，状語となる。

21　他总是象春风一样*轻柔*地抚慰着她。（彼はいつも春風のようにやさしく彼女を慰めている。）

22　雨点象一个醉汉*疯狂*地抽打着孩子的脸。（雨は酔っ払いの男さながら気違いのようにその子の顔を打っていた。）

④定語となる

23　美云跑着，撒下铃儿般*清亮*的笑声。（美雲は走り去り，鈴の音のようにすんだ笑い声が残された。）（王振武『最后一篓春茶』）

24　她那*鲜亮*的苹果似的面颊……（彼女のリンゴのように明るくて，みずみずしい顔……）（杨守松『导演』）

Ⅲ　中日両語の直喩表現の比較

1　中日直喩各類型の対応状況

以上，それぞれ両言語における直喩表現を構文特徴による分類法について述べたが，ここで，両語直喩の各種類の対応関係を調べてみたい。（中国語直喩文は「象……一样」を比喩詞の例とし，日本語直喩文は「ようだ」を比喩指標の例として挙げる。）（表 1）

中国語直喩文のＡ型と日本語直喩文のタイプａでは，どちらでも本体（X）

表1

<table>
<tr><th colspan="3">中国語直喩文の四タイプ</th><th colspan="2">日本語直喩文の四タイプ</th></tr>
<tr><td>A</td><td colspan="2">X象Y一样。
（光阴象箭一样。）</td><td>a</td><td>XはYのようだ。
（光陰は矢のようだ。）</td></tr>
<tr><td>B</td><td colspan="2">象Y一样的X
（象箭一样的光阴）</td><td>b</td><td>YのようなX
（矢のような光陰）</td></tr>
<tr><td>C</td><td>C－①</td><td>X象Y一样（謂語）。
（光阴象箭一样〈飞逝〉）。</td><td rowspan="2">c</td><td rowspan="2">XはYのように（述語）
（光陰は矢のように〈すばやい〉）</td></tr>
<tr><td>D</td><td>D－①</td><td>X（謂語）得象Y一样。
（光阴〈飞逝〉得象箭一样。）</td></tr>
<tr><td>C</td><td>C－②</td><td>象Y一样（定語）X
（象箭一样〈飞逝的〉光阴）</td><td rowspan="2">d</td><td rowspan="2">Yのように（連体修飾語）X
（矢のように〈すばやい〉光陰）</td></tr>
<tr><td>D</td><td>D－②</td><td>（定語）象Y一样的X
（〈飞逝〉得象箭一样的光阴）</td></tr>
</table>

と比喩連語が主述関係であるので，対応しているといえる。

中国語直喩文のB型には，比喩連語と本体（X）との連体修飾，被修飾の関係があり，日本語直喩文のタイプb「ような」文の構造と一致しているといえよう。

C－①型，D－①型に属する中国語直喩文はいずれも比喩連語が文の述語を修飾するものであるが，日本語直喩文のタイプcと同じような構造をしている。

比喩連語が修飾している用言は，本体を修飾する定語である。こういう点では，中国語直喩文のC－②型，D－②型は日本語直喩文のタイプdと同じ性質を持っている。

このなかで，日本語で「ように」を用いた直喩表現は，中国語では，比喩連語を状語にするか，補語にするかの二つの選択があることが分かるだろう。

「ように」文とその中国語訳文から，もう一度確かめよう。

25　樹は風船のように脹らんで空に昇っていきそうに見える。（日）

（立松和平『この陽ざかりに』）

树木象气球似的膨胀着，好象要飞上天去。（中）

树木膨胀得象气球似的，好象要飞上天去。（中）

比喩連語とその被修飾語の位置からみると，中国語でのＣ型（状語型）の文は日本語でのタイプ c，タイプ d とおなじように，「比喩連語＋被修飾語」の形をとる。これに対して，D 型（補語型）の文は「被修飾語＋比喩連語」の形をとるのである。この点から見れば，補語型の直喩表現は中国語直喩文構造の特徴の一つであると言えよう。

2　文学作品から見た中日両語直喩表現の特徴

2-1　調査の対象と方法

以上，日本語と中国語の直喩文の言語的構造を，いくつかの類型に分類し，それぞれの特徴を検討してきた。次に，文学作品を通して，中日両語の文学創作の分野における直喩表現の使用の特徴と傾向を探してみたい。

ここで調査の対象として用いるのは，中国の小説家老舎の作品『二馬』(注18)とその日本語訳『馬さんの父子』（竹中伸　訳）(注19) である。調査は，原本と訳本の中のすべての直喩表現を抜き出し，表現はどのように対応しているかを調べる。特に表現方法が一致していない場合，それぞれどんな表現法を用いたかを調べて，それを数字データにする。また，両方とも直喩表現を用いた場合でも，言語表現の習慣によって，直喩の形が異なっているものも少なくない。これらの異同は両語の言語習慣によるものと思われる。そこで，直喩と非直喩の対応，そして，直喩の各種類の対応状況をデータで表し，その結果によって，両語の比喩表現の使用傾向を探す。

2-2　原，訳本比較の数字データと例文

中国語原本『二馬』と日本語訳本『馬さんの父子』において，直喩表現が用いられたのはそれぞれ 192ヶ所と 185ヶ所ある。その中で，原，訳とも直喩を用いたのは 169ヶ所，原本が直喩表現であるが，訳本では直喩でない表現を用いたのは 23ヶ所，逆に，原本では直喩表現でないが，訳本で直喩表現にしたのは 16ヶ所あった。

まず，両方とも直喩を用いた表現を詳しく調べてみる。Ⅲ－１で中日直喩

類型の対応状況を示しておいたが，原本と訳本では，完全に対応するタイプに属している直喩表現は77ヶ所ある。その中の具体的な数字は次のようである。

原本ではA型の直喩で，訳本ではタイプaである場合は35ヶ所ある。

26　一串灯光在雾里漂着，好像几个秋夜的萤光。

（街燈の光が霧の中にボンヤリと浮かんでいて，まるで蛍の光のようだ。）

原本ではB型の直喩で，訳本ではタイプbである場合は6ヶ所ある。

27　她那种小野猫似的欢蹦乱跳，一见面他心里便由羡慕而怜爱而痴迷。

（自由奔放に山野を跳び回る小さな野獣のような彼女を見たとき，…を感じたのであった。）

原本ではC－①，D－①型の直喩で，訳本ではタイプcである場合は36ヶ所ある。

28　小鳥似的又飞出去了。

（まるで小鳥が飛び立つようにパッと家から出て行くのであった。）

29　那圈金光，把她衬得有点像图画上的圣母。

（その金色の光でまるで彼女が名画の中の聖母像のように見えた。）

原本ではC－②，D－②型の直喩で，訳本ではタイプdである場合は今回の原，訳本では出ていない。

次に類型の対応していない直喩を用いた場合を見る。

原本では，A型の直喩で，訳本では，タイプbの場合は21ヶ所ある。

30　马威这几天的心里像一锅滚开的粥。

（馬威はこの数日間，心の中はまるでお粥が鍋の中でグラグラ煮えたぎっているような気持だった。）

タイプcの場合は54ヶ所ある。

31　看人家有钱的妇女，五十多岁还一朵花儿似的。

（お金持ちの婦人は五十を過ぎてもなお花のように美しい。）

原本では，B 型の直喩は，訳本では，タイプ c の場合は 1ヶ所ある。

32 亚力山大坐下，把脚，两只小船似的，放在火前面。

（アレキサンダーは腰をかけ，マントルピースの前に脚を二隻の小船のように並べた。）

原本では，C －①型の直喩で，訳本では，タイプ a になった場合は 3ヶ所ある。

33　伊太太勉强一笑，和魔鬼咧嘴一样的和善。

（伊夫人は強いて笑ったが，それは悪魔が善人面をして笑っているのと同じだった。）

タイプ b になった場合は 6ヶ所ある。

34　老马先生坐着的姿式，正和小官儿见上司一样规矩。

（老馬先生が椅子に腰掛けている姿は，まるで小役人が上官の前に坐って訓戒を受けるような格好であり…）

タイプ d になった場合は見られなかった。

原本では，D －①型の直喩は，訳本では，タイプ a になった場合は 4ヶ所ある。

35　李子荣睡得像一个无知无识的小孩儿。

（〈李子栄〉まるで無邪気な子供が眠っているようだった。）

タイプ b になった場合は 3ヶ所ある。

36　温都太太进来，喊得颇像吓慌了的小鳥。

（ウインター夫人は入ってくるなり，まるで慌てた小鳥のような声を出して叫んだ。）

タイプ d になった場合は見られなかった。

次に，原本と訳本では，一方は直喩で表現しているところを，もう一方は，ほかの修辞法を用いて表現している，或いは，何の修辞法も用いること無く，直接説明するか，描写する場合を見る。

原本では直喩であるが，訳本は隠喩を用いて表現しているのは 3ヶ所，擬

人法を用いて表現しているのは1ヶ所，そして，非修辞的表現を用いて表現しているのは19ヶ所あった。

37　他到英国来，真像个摸不清的梦。

（彼が英国にやって来たのは，まことに不可解な夢であった。）

38　…都像向着阳光发笑。

（…太陽の光に向かって笑いかけていた。）

39　穿梭似的来回端茶拿菜。

（料理や飲物を持って，忙しく行ったり，来たりしていた。）

一方，原本では，直喩表現ではないが，訳本では直喩にした表現は16ヶ所あった。その中で，原本では「暗喩」(注31)，「借喩」(注32)，「較喩」(注33)，「誇張」(注34)，非修辞的表現である場合はそれぞれ3ヶ所（例文40），1ヶ所（例文41），2ヶ所（例文42），1ヶ所（例文43），9ヶ所（例文44）あった。

40　…拿着音乐家在钢琴上试音的那个轻巧劲儿，在门环上敲了两三下。

（…音楽家がピアノの鍵盤の上に手を差し伸べるような格好で，…）

41　系上鞋带儿，脚面上凸出两个小肉馒头。

（靴の紐を結ぶと，足の甲の肉が盛り上がって，肉饅頭を二つ並べたように見える。）

42　他们的腰板挺得比图画板还平还直。

（彼らは定規を立てたように腰をピンとまっすぐに伸ばし…）

43　火苗往起喷着，似乎要把世界都烧红了。

（薪が威勢よく燃えており，世界じゅうの物を悉く焼き尽くそうとするかのようであった。）

44　电灯煤气灯…死白的亮着。

（…死者の顔のように青白く光っている。）

2-3　中日文学作品の直喩使用の特徴

以上の比較から，いくつかの特徴を見出すことができると思う。

①言語表現の習慣として，中国語の直喩表現では，Aの謂語型をする直喩文

は一番多く見られる。総直喩文数 192 の中で 110 あると，半分以上を占めている。これに対して，日本語の場合は，タイプ c が 91 : 185 という比率をもっていて，一番多用されていると見られる。典型的な形としては，中国語の「象…一样」文が日本語で「…ように見える」など主観感覚を表す動詞を用い，主観感覚を強調するのが普通である。

45　简直的像两块茶青色的磁砖。

（美しい青茶色の磁器のように見える。）

②中国語の各型には，日本語訳でタイプ b に転じた表現が目立つ。その特徴は「ような」に「状態，格好，感じ」などの抽象的な名詞が後続することである。

46　马老先生还小菩萨似的睡着……

（老馬先生はなおも菩薩像のような格好をして睡っており……）

③両語とも C －②型，D －②型，或いはタイプ d のような表現は極めて少ない。

④中国語原本では，C 型の状語型と D 型の補語型の直喩は，それぞれ 34 と 18 あったが，その中の大部分は，日本語訳では，タイプ c の直喩になっている。中国語では状語型と補語型の使用率はだいたい 2:1 ぐらいになっているが，日本語では，タイプ c だけで表現している。

Ⅳ　おわりに

今までの直喩を含む比喩表現についての研究の多くは，喩えるものと喩えられるものとのイメージ上のかかわりや，表現と理解過程における表現者と理解者の心理的活動など，いわゆる意識や概念をめぐってなされていた。金岡孝氏が「比喩について」(注24) の中で指摘したように，「比喩の構造を言語による表現活動の一つとして科学的に分析するといふ仕事が忘れられてゐる」という傾向がある。

本稿では，少し観察の角度を変えて，直喩の言語表現としての性格に注目

して，検討を進めてきた。まず，中国語直喩文の各構文要素，とくに「相似項」の性格と文法的役割を分析し，そして「比喩詞」を骨格とした比喩連語の文法的役割によって，中国語直喩文を分類した。さらに，実例を通じて，中日両語直喩表現の各類型の対応状況，そして，それぞれの直喩使用の習慣的傾向をまとめてみた。

以上の分類や分析はまだまだ初歩的なものにとどまっているが，今後の課題として，もっと幅広い範囲で，多様な実例を取り，さらに全面的な比較を行っていきたいと思う。

注

1)「日本語直喩表現に関する一考察——類似点とその言語的形式をもぐって」苗　茨（『愛知大学・中国交換研究員論叢・第 15 号』愛知大学中国学術交流委員会　編　1998，9）
2)「比喩指標」の提起は，中村明『比喩表現の理論と分類』（秀英出版 1977）32 頁，182 頁を参照。
3)『文則』陳　骙（宋）著。中国で初めての修辞学の専門書。
4) 陳　骙著，劉彦成　注訳『文则注译』（書目文献出版社　1988，2）40 頁を参照。
5) 以下の訳文は説明がつかない場合，筆者によるものである。
6)『汉语词格大全』汪国胜，吴振国，李宇明（广西教育出版社 1993，2）明喩の定義は 14 頁を参照。
7) 陳道望『修辞学发凡』（上海教育出版社　1979，9）72 頁を参照。
8) 前掲注 1）5 頁—8 頁を参照
9) 前掲注 6）15 頁を参照
10)「類似点」は，比喩に扱われている二つの物事，喩えられる物事と喩える物事に間に存在する共通している性質やイメージを指す。「類似項」は，直喩文の中で類似点を表す語句を指す。
11)『修辞学論文集・第三集』中国修辞学会編（福建人民出版社　1985，9）
12) 谭德姿「试论比喻的喻解」（『山东师范学院学报』1980，第 2 期）
13) 马挺生「试论比喻的结构和它与语法结构的关系」（『修辞学論文集・第一集』中国修辞学会編福建人民出版社 1983，7）

14) 前掲注 11) 黄婉莹「"相似点" 的身分与隐现」を参照。
15) 前掲注 6) 16 頁を参照
16) 比喩連語は，直喩文の中の比喩詞を含んだ，比喩を表す連語を指す。
17) 補語 『実用漢語語法』239 頁によると，補語の定義と作用は次のようである。
「補語は動詞或いは形容詞の後に付く補充的説明の文成分だ。その作用は動作の結果，程度，様態並びに性質状態の程度，様態を補充的説明をすることである。」
18)『老舎文集』老舎（人民文学出版社 1980，11）
19)『老舎小説全集・3』老舎 著 竹中伸・斎藤喜代子 訳（学習研究社）
20) 以下四つの修辞法は，いずれも中国語においての名称で，日本語の同名の修辞法と意味の違う場合がある。つぎの定義は『漢語修辞格大辞典』によるものである。暗喩：「是」などの比喩詞を用いて，本体と喩体をつなぎ，両者の比喩関係を表す比喩法。4 頁
21) 借喩：本体と比喩詞が現れないで，直接喩体で本体を代替する比喩法。5 頁
22) 較喩：本体と喩体を程度の上で比較させる比喩法。24 頁
23) 誇張：表現の効果を上げるために，わざと対象とある特徴や性格を誇大或いは縮小する修辞法。74 頁
24)「比喩について――その表現心理的構造と言語的性格」 金岡 孝
(『文章，文体論集 日本と研究 8』有精堂 1977，4)

参考文献

1)『比喩表現の理論と分類』中村明 秀英出版 1977
2)『レトリック感覚』佐藤信夫 講談社 1992
3)『レトリカ 比喩表現辞典』第二版 榛谷泰明 白水社 1994
4)『文则注译』 陳 骙著，劉彦成 注訳 （書目文献出版社 1988，2）
5)『汉语词格大全』汪国胜，吴振国，李宇明（广西教育出版社 1993，2）
6)『修辞学发凡』 陳道望（上海教育出版社 1979，9）
7)『修辞学論文集』 中国修辞学会編 （福建人民出版社第一集 1983，7 第三集 1985，9）
8)『老舎文集』老舎（人民文学出版社 1980，11）
9)『老舎小説全集・3』 老舎 著 竹中伸・斎藤喜代子 訳 （学習研究社）
10)『実用漢語語法』 房玉清 （北京語言学院出版社 1992，1）

11)『漢語修辞格大辞典』唐松波，黄建霖　編　(中国国際广播出版社　1989，12)
12)『文章，文体論集　日本と研究 8』(有精堂　1977，4)